

昭和五十年九月招集

第三回館山市議定会定例会会議録第五号

館山市議 会

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	一
開議	二
認定第一号乃至認定第七号	二
議案第六十六号	二
請願第三号	二
閉会	三
本日の会議に付した事件	三

一、昭和五十年十月六日（月曜日）午前十時

二、館山市役所議場

一、出席議員 二十九名

一番	吉田勇治郎	二番	伊藤幸太郎
三番	矢野壽夫	四番	押元 稔
五番	黒川平治	六番	鈴木正義
七番	本間昭二	八番	松下正己
九番	鈴木 稔	一〇番	流山源次郎
一番	近藤好雄	二番	栗原一雄
三番	林 豊	四番	石井輝久
五番	辻田 実	六番	安西益男
七番	石井武敏	八番	渡辺軍治郎
九番	渡辺昭夫	一〇番	和田一郎
二番	五十嵐昇	二番	菊井敏博
四番	西村真次	二五番	伊賀多朗
六番	藤田益治	二七番	遠山ヨネ子
八番	石井 正	二九番	望月照正
三〇番	山口 康		

一、欠席議員 一名

二一番 田中 禄郎

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第五号）

昭和五十年十月六日午前十時開議

認定第一号 昭和四十九年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十九年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十九年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

日程第一 認定第四号 昭和四十九年度館山市国民宿舍特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十九年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十九年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十九年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

認定第七号 昭和四十九年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

日程第二 議案第六十六号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について

日程第三 請願第三号 館山市にテレビ中継放送局誘致に関する請願書

開 議 午前十一時開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十九名、これより第三回市議会定例会第五日の会議を開会し直ちに本日の会議を開きます。

ます。

議案の配付

○議長（吉田勇治郎君） 議案を配付いたさせます。議案の配付漏れはありませんか。――配付漏れなしと認めます。

本日の議事は、お手許に配付の日程表により行ないます。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、認定第一号乃至第七号昭和四十九年度一般会計並びに特別会計決算を一括して議題といたします。

認定第一号 昭和四十九年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十九年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十九年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十九年度館山市国民宿舍特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十九年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十九年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十九年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

決算審査特別委員会委員長報告

〇議長（吉田勇治郎君） 本決算は共に去る十月一日に特別委員会を設置し付議されたものであります。

よって、これより本決算に対し、決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長長の報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長菊井敏博君ご登壇願います。

（二三番議員菊井敏博君登壇）

〇二三番（菊井敏博君） 決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果につきましてご報告申し上げます。

去る一日開会の本会議におきまして、本委員会に付託となりました認定第一号乃至第七号、昭和四十九年度一般会計並びに特別会計決算につき、二日委員会を招集し、各会計における決算を慎重に審査を行いました。

本決算につきましては、すでに監査委員による監査の結果、計数は正確であり、予算執行はおおむね所期の目的にそい、適法かつ効率的になされている旨の決算審査意見書が付されておるところではありますが、本委員会といたしましては、議会の立場より付託の趣旨を体しまして審査を進めました。

御承知のとおり、四十九年度は年度途中において半沢市長が就任されたわけでありますが、行政の執行にあたっては、本間前市長の基本施策である産業、教育、観光、福祉の四本の柱を中心に従来からの施策を引き続き推進してまいったと提案説明に述べられておりますので、本委員会の審査にあたっては、これらの点を勘案し、さらには、異常な物価高騰と総需要抑制下における、き

びしい経済環境、時代的背景を踏まえつつ、予算が議決の趣旨にそって効率的に執行されたかを重点として審査を行いました。

審査の過程においては、本会議並びに委員会等で論議された事項についても市当局の考え方をただし、あるいは、処理状況について説明を求め今後検討を加える点、改善すべき点を指摘するとともに、その善処方を要望いたしました次第でございます。

以下委員会におきます質疑応答等整理いたしましたので、その概要をご報告申し上げます。

まず、一般会計歳出総務費中、安房郡市広域市町村圏事務組合に対する負担金が事業別に支出されておりますが、市町村別の負担割合について伺いましたところ、お手もとに配付のとおり安房郡市広域市町村圏事務組合の概況が資料として提出されましたが特に特別養護老人ホームについては、市民希望の施設でありますので、本委員会といたしましては、内容説明を求めたうえ施設の効率的運用の面から、館山老人ホームの併置について市において努力されるよう要望いたしました。

次に交通安全対策につきましては、決算に関する報告の中で、市民交通傷害保険制度、交通事故相談、交通相談員制度などの積極的な推進をはかったと述べられていますが、交通事故相談について、その状況の説明を求めましたところ、四十九年度においては、防災課の窓口で受け付けたもの百三十二件、毎月一回実施する県の巡回相談において四十八件、交通相談員において行なったもの八十二件である旨の説明がございましたが、本委員会といたしましては、特に交通相談員については、情報交換会等の開催により適切な指導を行ない、制度の積極的な活用をはかるとともに

市民に十分周知されるよう要望いたしました。

次に結婚相談員につきまして、四十三年発足以来、七十四件の成立をみておりまして、農漁村の嫁、むこの深刻な現況から、なお一層の努力を要望いたしたところでありますが、なお相談員については市の非常勤特別職の職員として、その選任にあたって将来検討されるよう合わせて要望いたしました。

次に、民生費中、奨学資金の貸付状況、愛のベル設置状況について伺いましたところ、奨学資金については、四十九年度大学十四名、高校二十三名に対し、貸付を行なったが選考委員会において二名が対象外とされております。

愛のベルにつきましては、四十九年度十六世帯に設置、全部で五十世帯となっており、なお今後、要望により逐次設置していく旨の説明がありました。

次に福祉全般について、最近の財政硬直化の中で福祉予算が一般行政に重圧となる傾向が指摘され、いわゆる福祉の見直し、ということが叫ばれておりますが、これに対する市長の考えを伺いましたところ、現在の福祉政策で十分であるとは考えていないけれども、老人医療費にしても、乳幼児の医療費にしても、高額な所得がある方でも、みんな一律に無料にすることが果たしていいかどうか、そういう意味から制度を見直し検討していく必要があるかと考えているとの見解が示されました。

次に衛生費中、ごみ処理施設の現況から、これが抜本的な対策が指摘されており、なお、十トン炉増設に際して五年以内に移転する旨の約束が地元と取りかわされておりますが、移転について確実な見込みがあるのかとの質問に対し、この際、本腰を入れて

衛生センタータ的な考えを中心として、ごみ処理場、し尿処理場の建設について、この十月から衛生課の中に係を置いて検討し、五年以内に移転するよう努力する旨の回答がありました。

次に労働費中、勤労者団体補助金として、労働組合の健全育成を目途に安房地区労に百二十五万円、同盟に五万円が補助されており、勤労者厚生対策預託金として、市内事業所従業員の融資の円滑化に資するため、労働金庫に三百万円が預託されておりますが、勤労者対策については、組織労働者はかりでなく、未組織労働者についても十分配慮され、対処されるよう要望いたしました。

次に農業委員会費に関連して、船形地区における成田屋工務店の宅地造成に関して、排水溝の不備については、議会においても議論され、農業委員会の仲介により話し合いが行なわれ、すでに一年を経過しているが、その後の状況について説明を求めましたところ、早急に実施するよう要請しましたが、一中のところの宅地造成事業と合わせて行なうので、その時点まで待ってもらいたいとの回答を得ておる旨の説明がありました。

次に、農業振興費中、農村青年グループ育成補助金については九重地区を中心とした4日クラブ十五名のクラブ活動に対し、助成されておることとありますが、現在の農業後継者難等にかんがみて、関係機関と連携の上、普及強化をはかれるよう要望いたしました。

次に商工費中、物価問題協議会につきましては、消費者行政の中で不用品交換会、消費生活展、モニター制度、店頭価格調査等実施してまいっておりますが、以前から協議会の体質に問題点が指摘されておるところでありますので、経済事情の変化に伴い

組織の再編成について今後の研究課題として検討を要望いたしました。

次に観光費中、観光協会補助金が支出されておりますが、観光協会が実施しているキャラバンはどのような形で行なわれているか。またその効果について伺いましたところ、例年二回、おもに東北地方を旅館組合が中心となつて実施しており、市からも四から五名が参加してゐる。方法としては、花の配布による宣伝、記者クラブの訪問、旅行業者の訪問等により観光客の誘致をはかつており、その効果については把握がなかなか困難であります。今後継続して実施する必要がある旨の答弁がありました。

次お土木費中、道路新設改良費委託料として市道舗装四カ年計画による開発公社への一億八千三百余万円が支出されておりますが、一面では予算の先食いということで見方によつては、批判も出てくると思うが、これに対する市長の見解を伺いましたところ、行政上の扱いとして適当かどうかは問題があると思いますが、必ずしも否定すべきものではない。早くこれだけの工事が出来て市民に便宜を与えたわけで、四十六年から四十八年といったような経済が伸びている時ならば、先行投資ということは結果的によかった。経済が沈静しているときには、こういう形を取るべきではないと考えておる旨の見解が示されました。

次に、旧館山漁協前の道路舗装について、予算委員会におきまして、県に早急に実施するよう要望しておる旨の説明がなされておりますが、その後の経過について伺いましたところ、県において港湾五カ年整備計画の中で実施するという話がありまして、土木事務所に照会したところ、大蔵省の用地の關係で、来年度実施

する旨の回答を得ておるとの説明がありました。

次に消防費について、消防団員の補充が困難な情勢にあります。が、団員の増減について市はどのように考えているか伺いましたところ、消防団員については、なかなか補充が得られない状況にあることは承知しておりますし、現在四百二十八名の定数に対し、四百二十六名であります。現有勢力は保持したい旨の答弁がありました。本委員会といたしましては、地区の実情に合った部の再編成について検討されるよう要望いたしました。

次に教育費であります。学校給食パンに対するリジン添加について、その後の経過について説明を求めましたところ、八月二十六日文部省よりリジンの安全性、必要性については、今も変わりませんが、いろいろ現場を混乱させる恐れがあるので、各都道府県の自主性にまかせるとの通知があり、千葉県では九月六日、各市町村の教育長を集めて全市町村共同して、十一月から当分の間リジンを添加しないことに決定したとの説明を受けました。

次に予備費の充用、流用について各款にわたつて質疑がなされそれぞれ内容説明を受けたところでありますが、執行の時期等いろいろな事情があり、やむを得ないものと考えますが、議会の議決尊重の観点から、その執行に当たつては十分検討されるよう要望いたしました。

次に負担金補助及び交付金についても、多くの質疑が行なわれました。補助金については、市においても再検討されたこと述べられておりますが、今後なお精査され、特に効果の把握については万全を期せられ、交付目的が達せられるよう要望いたしました。

次に歳入市税につきまして、本会議においても論議されました。

ように、経済情勢の悪化により、市民生活はかなり窮乏の度を加えておる今日、徴収にあたっては困難が予想されますが、個々の実態を調査され、税の公平を期する観点から一そうの努力を要望いたしました。

次に財産取入中、土地売り払い収入として当初予算において三億円が計上され、予算の執行にあたってこれを充たなかったために歳入欠陥を生じたことは周知のとおりでありまして、この間の事情については、本会議においても何回となく論議され、市当局の見解も十分示されておるところではあります。問題の重要性にかんがみて、また予算が有効適切に市政に反映されているか、議会の議決を尊重しながら執行に当たったか、という決算審査の立場から今後の予算執行に対する考え方と合わせて市長の見解をたどりましたところ、議会の議決事項については予算のみならずすべて尊重すべきであることは勿論であり、今後也十分尊重する考えであります。本件については議会の審議の状況、予算委員会の委員長報告等も十分勘案の上、売らないほうがいいんではないか、より有効な方法を考えた方がいいんではないかという考えから歳入欠陥といった旨の見解が述べられました。

次に国民健康保険特別会計につきましては、被保険者が比較的弱い層が多いことにかんがみ、これが財源確保については一地方自治体において解決できない面もあるので、県、国に対する政治的な働きかけを強く要望いたしました。

次に、と畜場特別会計につきましては、と畜数の減少により一般会計からの繰り入れを余儀なくされておりますが、業者を利用を働きかけるなど健全な運営に一段の努力を要望いたしました。

次に国民宿舍特別会計につきましては、国民休暇村西岬荘誘致の際、将来休暇村が拡充される場合は、鳩山荘の敷地を提供してもいいというような話し合いがあったやに聞いているが、このことも含めて鳩山荘に対する考え方を伺いましたところ、鳩山荘は、四十九年度赤字、今年の経営状況も五百円の料金アップをしたがその割には料金収入が伸びておりません。今年もこのままていくと赤字が出ると思うし、さらに将来にわたって赤字が増えると思うので、根本的にどうするか、早急に結論を出さなければならぬと考えている。なお、西岬荘に土地を提供するという話については聞いておりません。寄付をいただいた土地であるし、そのときに青少年の健全育成のためにということも伺っておりますのでその意思を尊重するような方法で考えたい旨の答弁がありました。

以上、本委員会におきます審議の概要をご報告申し上げた次第であります。特に本年度一般会計実質赤字額三億五百八十二万二千円の解消については、提案理由に長期的な展望のもとに歳出の見直しを行ない、財政の再建をはかる旨その決意が述べられておりますが、本委員会といたしましてもこれが早期解消に格段の努力を要望いたしました。

なお、自治体における財政は、ますます深刻化の方向にあるとき、今後市当局におかれましては財源確保と合理的な予算の執行によって、市民福祉の向上と、市勢の伸展をはかれるよう希望いたしますのであります。

以上、本委員会は付託を受けました認定第一号乃至第七号昭和四十九年度一般会計並びに特別会計決算は、おおむね所期の目的を達し得たものと認め、いずれも認定することに決しました。

ここに決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果についてご報告申し上げた次第でございます。

満場のご賛同をたまわりますようお願い申し上げます。委員長報告を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、委員長の報告を終わります。

本報告につき御質疑願います。御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） これより討論を行ないます。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は認定第一号昭和四十九年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について反対の討論を行ないます。

私は、昭和四十九年度館山市一般会計予算に反対する討論を行ないました。その中で、乳幼児のための保育所建設、中小企業金融に対する融資ワタの拡大、貸し付け期間の延長、特別老人年金敬老祝金、交通遺児手当の増額等の積極的な面については評価しましたが、六項目について問題点を指摘し、改善を求めました。

第一は、当時、狂乱物価の中で市民の生活と営業を防衛するために積極的な対策が要望されたにもかかわらず、消費生活係を設けて情報収集や、苦情の処理等消極的な立場でしか受けとめられず、価額調査官の活用等積極的な施策は取られなかった。また請願で採択された低所得者層に対するインフレ手当の支給も実施されませんでした。

第二は、行政事務委託料四百九十六万六千七百二十円、徴税費

一千六百七十一万九千四百三十円の支出についてですが、これらの支出は法的根拠のない規則で便宜的に扱われているのは問題であります。特に、自主的、民主的組織である町内会を行政の機関化することは民主主義に反するものであります。

第三は、三芳水道の負担金四千三百三十万円の支出については、関係市町村において水の使用量に応じて配分割合をきめるよう主張してききましたが、五十年で一定の改善が行なわれたのは前進面として評価したいと思えます。

第四は、道路、港湾等国や県の行なう事業に対する負担金合計額は五千七百一十一万七千七百五十円の支出となっていますが、これらの負担金は市財政を困難にしているので、解消するよう主張します。

第五は、超過負担についてですが、四十九年度超過負担の合計は一億三千二十万二千円、そのうち大きなものは一中、二中の防音改築事業五千七百一十一万八千円、保育所費三千四百七十九万八千円、国保事務費千五百六十九万八千円、農業委員会千三百六十六万円、国民年金、外国人登録事務九百六十四万四千円となっていますが、これが市財政を圧迫し、市民に負担を転嫁する元になっています。これは周知のとおりであります。今議会では財政危機突破に関する意見書の議決をみていますので、国に対して超過負担解消の運動を強化するよう主張するものであります。

次に、歳入についてですが、市民税の収入未済額の合計は二千九百四十四万四千七百七十四円、不納欠損額は三十一万二千八百二十円となっていますが、説明では三期以降の滞納が増加していると聞いています。特に、固定資産の未済額は千五百四十四万七

千八百二十四で四十八年度の三倍になっています。これは深刻な不況の反映であると思われます。したがって、市民生活と營業を防衛するために固定資産税の値上げは見送るよう主張します。

五十一年度は課税標準額の評価がえが行なわれますが、不況の中で、地価も平均九・六%値下りしていると発表されているので値上げの根拠は薄いと思いますが、土地に依存しているゴルフ場や自衛隊基地等大土地需要者からの増収をはかることは、財政事情からみて妥当であると思います。

次に、寄付金収入についてですが、決算額は三千八百五十二万二千百十二円で予算額より千四百六十九万六千百十二円の増収となり、税外負担が強化されています。本来、寄付金は任意のもので道路舗装、青年館、消防、港湾等公共事業に対する一般財源を寄付金に求め予算化することは、結果的には割り当て寄付となり、地方財政法第四条の五項に違反する行為となっているのが現状です。自治省通達もこれを禁じているので、このような寄付金は全廃するよう主張します。

次は、財産収入についてですが、四十九年度決算で三億五百八十二万二千円の歳入欠損額を生じたことについて、会計監査委員の意見は「実質赤字が三億五百八十二万二千円となっているので積極的にこれが解消に努力されるよう念願するものである」とだけしか述べていません。決算は数字の確認だけでなく、行政を総括点検して施策の充実をはかる上で、会計監査の重要性があると思います。また、厳正さが期待されるのもそのためだと思います。四十九年度決算の最大の問題は、三億円余の歳入欠陥がどうして生じたかを点検しないで済む問題ではないと考えます。この歳入

欠陥は、単に売るべき土地を売らないために財産収入が得られなかったという単純な問題でなかったことは、議会でたびたび論議されました。

経過的にみれば、二中の敷地を中村庸一郎氏から買取契約をした際、一中の跡地は当分の間売らないという承諾書を取りかわしていたこと。第一回の支払い代金を相手が受け取らないこと。法務局に供託するというトラブルがあったこと。払い下げを申請している会社の中にゆうれい会社が登録されていたことなどから、疑惑を持たれた案件であったことはたしかです。

前市長は、十二月の議会でも、議会の承認を得たので売り払うと強弁されてきました。問題なのは、現に使用中の行政財産を売り払うことは、地方自治法第二百三十八条の四の一項で「貸し付け、交換し、売り払い、譲与し、もしくは出資の目的とし、またはこれに私権を設定することができない。」と規定されています。二項では、「土地は、その用途または目的を妨げない限度において、他の地方公共団体その他政令で定めるものに対し、政令で定める用途に供するため、政令で定めるところにより、これを貸し付け、またはこれに地上権を設定することができる。」として、貸し付けや地上権設定にもきびしい条件をつけています。なお、三項では「第一項の規定に違反する行為は、これを無効とする。」とまで規定しています。

財政課長は、議会の答弁で行政財産を普通財産にかえ売却し、売却した者から借りることができるとで違法ではないといっています。発想は予算編成の時点から市長が十二月退任するまで競売にすることを議会で言明し続けていたものであります。この

事実経過からみて、予算編成と執行の関係で問題点を明らかにする必要があると思います。

地方財政法第三条の二項では「地方公共団体は、あらゆる資料に基づいて正確にその財源を捕そくし、かつ、経済の現実に即応してその収入を算定し、これに予算を計上しなければならない」と規定し、第四条の二項では「地方公共団体の収入は、適実かつ厳正に、これを確保しなければならない。」と規定しています。

この規定に照らして事実経過をみれば、半沢市長が一中跡地の利用については将来のことを考えて検討することとして、売らないことに決定したといっているとおり、予算編成当時の発想に無理があったことは明らかであります。これほど、はっきりした問題について違法でないといいはるだけで、反省の色がみられないことに對し遺憾の意を表し、昭和四十九年度一般会計歳入歳出決算の認定について反対する者であります。

次に、私は、認定第二号昭和四十九年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定に反対する討論を行ないます。

四十九年度予算では療養給付費が四千二百二十七万九千円の減額補正をした上に、決算では千六百六十一万七千八百八十三円の不用額を出しています。したがって、予算より五千九百三十二万六千六百二十五円の減となり、保険税も決算では予算額より二百二十四万九千三百三十四円の減になっています。予算との関係でみると大きな開きがあり、算定に問題があると推定されます。

収支で四千三百二十万二千九百四十八円の繰り越しとなっていますが、保険税の収入未済額は一千八百三十二万六千十円、不納欠損額は六十三万六千十円で収入未済額は前年度の二倍になって

います。インフレ不況による市民生活と営業の困窮化を示していると推定されます。

毎年、保険税が値上げされ、四十九年度は四四%と大幅な値上げとなり、五十年度も二三%の値上げで一世帯当たり四万九千円一人当たり一万五千円と、市民の大きな負担になっています。

四十八年度は一般会計から一千五百万円の繰り入れがありましたが、四十九年度は予算に一千五百万円を組みながら、七百五十万円の減額をしています。事務費の超過負担が一千五百六十九万八千円ありますが、これを保険税に転嫁するのは不当であり、この分は一般会計から繰り入れるのが妥当であります。

保険税も、すでに限界にきており、国の負担金補助金を大幅に引き上げ、超過負担を解消して、保険税の軽減をはかるよう主張し、四十九年度国民健康保険会計の決算の認定に反対するものであります。

次に、私は、認定第七号昭和四十九年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定に反対する討論を行ないます。

損益計算書で、収益勘定は四千七百八十二万八千八百三十一円、資本勘定は一千三百五十四万五千四百四十四円の赤字決算になっていますが、資本勘定には拡張事業に三千四百三十三万七千円を出資金として一般会計から繰り入れていますが、従来、収益勘定にも一般会計からの繰り入れがあり、水道料金の値上げをおさえた四十八年度は二百五十一万四千四百七円の黒字となっています。

市長は、企業の独立採算制を主張し、受益者負担が原則だとして一般会計からの繰り入れを拒否していますが、公営企業法第三条は「公営企業は、本来の目的である公共の福祉を増進するよう

に運営されなければならない。」と規定し、地方財政法第六条に基づいて、自治省の通知も、営業収益を経費の八〇％程度に見込むよう指示しています。

特に、館山市の水道は西岬、宮城、南条については毎年断水、時間給水、水の出がわるいと、給水サービスが悪化しているのにその改善計画もなしに今日に至っているのは、公営企業として許されないことであります。

私は、給水状態の改善を要求し、昭和四十九年度水道事業特別会計収支決算の認定に反対する者でございます。以上。

○議長（吉田勇治郎君） 他に賛成の討論ございませんか。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 認定第一号乃至第七号について賛成いたします。

ただいまの決算委員長報告により、各委員の付議されました案件に対し慎重な審査内容の説明により細部にわたり了解できました。一般会計の収支は三億五百八十二万二千円の実質赤字となりました。一億程度の収支は三億五百八十二万二千円の実質赤字となったわけでございます。当初、一般会計歳入予算として一中、二中の学校建築による財源不足を見込み、一中新校舎に伴う跡地売り払い収入として三億二十六万円を計上いたしたものが大きな要因となっております。一中は現在なお、義務教育施設として継続して使用いたしておりますので、行政財産であり、歳入欠陥として不足を生じたことはやむを得ぬものと判断し、賛成いたす者でございます。以上。

○議長（吉田勇治郎君） 他に反対の討論ございませんか。他に討論ございませんか。

○一四番（石井輝久君） 私は、今次定例会に提案され、ただいま議題となっており、昭和四十九年度一般会計歳入歳出決算の認定並びに特別会計六件の決算認定について承認することに賛成の討論をいたします。

およそ、決算の認定につきましては、監査委員が帳票書類等精査することはもちろんであります。議会といたしましては、まず第一に、過年度予算が市民のために有効に使われたかを審査すること。第二に、予算の執行にあたりまして議会の議決が尊重されたかを審査すること。この二点にしろられると思うのであります。

この観点から一般会計の決算をみますときに、歳出面で予算の雇用、予備費の充用等にいささか留意すべき点があったこと。また、補助金、交付金で若干考うべき点があったこと等があげられ、また、その支出の行政効果、経済効果に若干の疑義が感ぜられる点がありましたが、全体といたしまして議会の議決が尊重されておるのであります。

ただし、歳入面で三億余万円の財産収入が議決されてあったにもかかわらず、そのとおりに執行しなかったことは市長の提案説明にもあったのであります。この点は、議会の議決を尊重しなかった最たるもので批判はまぬがれず、私もこの点を指摘し反省を求めたのであります。

これに対して、市長は今後とも将来にわたって議会の議決、意思を尊重する旨を確約いたしましたのであります。この点、決算審査特別委員長の報告中にも触れており、この市長の言明を信じ、昭和五十年以降の予算の執行にあたっては、いやしくも議会の議

決、議会の意思に反することのないよう厳にいましめ、認定に賛成するものであります。

また、四十九年度予算に占める人件費の比率は三七％でありまして、国の地方財政計画からみてもほぼ適正であり、全国の赤字転落市町村三十七と比べると内容に隔たりがあり、健全とみられるのであります。

なお、国保会計の保険税等にも若干の批判がありますが、現行の法体系のもとにおきましては、やむを得ざる面が多く、認定に賛成する者であります。

各位の御同意をいただきたく、賛成の討論といたします。以上。
○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。― 討論なしと認めます。

採

決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決を行います。採決にあたりましては分割して採決いたします。

まず、認定第一号昭和四十九年度一般会計決算についての採決は起立により行ないます。

認定第一号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、昭和四十九年度一般会計決算は、委員長長の報告のとおり認定することに決しました。

ついで、認定第二号国民健康保険特別会計決算を起立により採決いたします。

認定第二号についての委員長長の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、昭和四十九年度国民健康保険特別会計決算は委員長長の報告のとおり認定することに決しました。

ついで、認定第三号乃至第六号各特別会計決算を一括して起立により採決いたします。

認定第三号乃至第六号についての委員長長の報告はいずれも認定すべきであるとするものであります。委員長長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立全員であります。よって、認定第一号乃至第六号の各特別会計決算は、いずれも委員長長の報告のとおり認定することに決しました。

ついで、認定第七号水道事業特別会計決算を起立により採決いたします。

認定第七号についての委員長長の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、認定第七

号昭和四十九年度水道事業特別会計決算は委員長長の報告のとおり
認定することに決しました。

暫時休憩いたします。

午前十一時五十分 休 憩

午前十一時五十七分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、議案第六十六号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案第六十六号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 説明を求めます。

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） ただいま上程されました議案第六十六号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてであります。現在固定資産評価審査委員会委員一名が欠員となっております。で、後任としまして福島信治君を最適任者と考へ選任したいのでぜひ御賛同たまわりますようお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終わりました。

御質疑願います。御質疑ございませんか。――御質疑なしと認

めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

討論に入ります。討論ございませんか。――討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

請願書の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、請願第三号館山市にテレビ中

継放送局誘致に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

請願第三号 館山市にテレビ中継放送局誘致に関する請願書

請願書の趣旨説明

○議長（吉田勇治郎君） 紹介議員の説明を求めます。

（一九番議員渡辺昭夫君登壇）

○一九番（渡辺昭夫君） ただいま議題となりました請願第三号テレビ中継放送局誘致に関する請願書につきまして紹介議員を代表して趣旨説明を申し上げます。

お手もとに配付の請願書に記載のとおり、現在館山市及び周辺一部地区はテレビの映像状態がわるく難視聴地域にも指定されておりまして、種々善後策を講じておる実情であります。これら現状のまま推移した場合の市民の経済負担等市民福祉対策として考えなければならぬことであろうかと存じます。中継放送局を誘致することによってこれらが改善されるわけでございます。なにとぞ、満場の御賛同をたまわりますようお願い申し上げます。

して趣旨説明いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 質疑に入ります。

御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

討論に入ります。

討論ございませんか。――討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより本請願を採決いたします。

本請願を採択すべきものと決しますことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本請願は採択すべきものと決しました。

なお、申し上げます。本請願書は関係各機関に送付して、この趣旨の徹底をはかりたいと思えます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。さよう取りはからわしていただきます。

閉 会

午後零時六分閉会

○議長（吉田勇治郎君） 本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。

よって、これにて第三回市議会定例会を閉会いたします。

○今日の会議に付した事件

一、認定第一号乃至認定第七号

一、議案第六十六号

一、請願第三号

地方自治法第二百三十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

吉田勇治郎

館山市議会議員

鈴木正義

館山市議会議員

伊賀良多朗

